



3「モリイコ!」では森や川の生き物たちと触れ合う体験もするが、里山の生態系を守るために、虫を捕まえても「持ち出さない、森の外の生き物は「持ち込まない」というルールなども、子どもたちは学んでいく。6月12日、自然観察会の参加者はツマグロヒョウモン幼虫などを観察したのち、竹林の整備や池の保全活動を行った

自主事業ではエコツアーやクイズラリーなどのイベントも開催している。「そとイコ!」は、身近な自然のおもしろさを親子で

2020年には日本自然保護大賞(保護実践部門)に入選した。(保護実践部門)に入選した。楽しいからこそ続けられる幅広い世代が作業に参加

里山を保全していく意味を自然と触れ合いながら学ぶ。遊林会では市から環境教育の委託を受けて、学校や各種団体への自然体験を実施している。

里山を保全していく意味を自然と触れ合いながら学ぶ。遊林会では市から環境教育の委託を受けて、学校や各種団体への自然体験を実施している。



3 ネイチャーセンター前の池ではバイカモを守るため、カナダモなどの外来植物を定期的に排除している。4 活動初期の整地で土を掘り返したところ、準絶滅危惧種のハイハマボックスが生えてきた。現在は柵を設けて保護するほか、子どもたちが水辺で遊ぶことで、繁茂の助けとなっている



巻頭特集

里山保全とその活用に取り組む 遊林会

里山を守り、自然と親しみ、森の力で心を育む

河川の周辺に繁茂する森林を河辺林という。東近江市建部北町にある「河辺いきものの森」は、市域の中央を流れる愛知川沿いに発達した河辺林の一部で、15ヘクタールの平地林。里山保全活動団体「遊林会」が、市と協働して保全・活用を行っている。



消滅の危機にある河辺林を後世へ残していくために

「河辺いきものの森」は、市内でもっとも大きな規模で残っていた河辺林だった。河川の氾濫原であったためか、標高が100メートル余りにもかかわらず、上流部の山地に育つ植物が混在して生育する、特徴的な自然を形成していた。

複数の地主が細分化して所有する土地だったことで、開発から免れてきたものの、1990年代に入ると、河辺林の地下にある良質な砂利を採取する動きが出てくる。森の存続が危ぶまれたことをきっかけに、市民有志が立ち上がり、1998年、里山保全活動団体「遊林会」(2014年



1 1998年以来、コツコツと地道に保全活動を続けている遊林会。多くの自発的な市民ボランティアに支えられ、貴重な里山が維持されている。2 定例活動日とは別に、毎月2回ほど木曜日に保全活動に従事する遊林会の「木ままクラブ」。重作業も多く、経験豊かなメンバーが活躍している。写真は草刈り機による雑草駆除の様子

Information

特定非営利活動法人 里山保全活動団体 遊林会 事務局

住所 東近江市建部北町531 河辺いきものの森内
電話 0748-20-5211
http://www.yurinkai.org



定例活動(保全作業)

日時 毎月第2土曜日(9:00~12:00)、第4水曜日(9:00~15:00/昼食を用意)
早退・遅刻OK
集合場所 河辺いきものの森・作業小屋前

河辺いきものの森・ネイチャーセンター

開館時間 9:00~16:30
休館日 月曜日、祝日の翌日、年末年始(12月28日~1月4日)
http://members.e-omi.ne.jp/ikimono/

